

青少年委員だより

「明るく・楽しく・仲良く」

第154号



令和元年12月1日(日)「新川たんけん隊」(新川さくら館)



「2年間で振り返って」

江戸川区青少年委員会

会長 川島 英夫

「子どもたちの喜ぶ笑顔のために活動し、子どもたちからは感動を分けてもらった」

私たちが青少年委員にとつて、今期はそんな2年間でした。「明るく・楽しく・仲良く」をモットーに、青少年委員会全体の活動に加え、各地域に根差した活動を行う7つの「地区部会」、地区部会の枠を越えて研究活動を行う6つの「研究グループ」を組織し活動してきました。そして、子どもたちとふれあう中で感動を味わい、喜びを共有する日々を過ごしました。

今期の特徴は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に関連する講演会や、施設見学等の研修にも力を入れたことです。子どもたちにとって心に残る大会になるよう、地域での機運醸成活動に活かすことができました。

また昨年は、ラグビーワールドカップが日本で初めて開催され、一つひとつのプレー、トライに世界中が歓喜した年でした。日本代表チームのスローガンとして掲げられた「ワンチーム」という言葉は、2019年の流行語大賞に選ばれました。私たちが青少年委員も一丸となり、多くの皆様と手を携えながら、青少年が健全に育まれる地域環境づくりを目指してきました。来期もそれぞれの経験や特技などを活かし、関係団体と協力しながら、子どもたちのために活動してまいりたいと考えております。

この2年間で青少年委員活動にお寄せくださいましたご厚情に心より御礼申し上げますとともに、さらなるお力添えをいただけますよう、お願いいたします。

はたちの手形

はたちを楽しむついでに

令和2年1月13日(月・祝)、江戸川区総合文化センターにて、令和初の江戸川区成人式が行われました。今年名の区の成人の数は7648名で、区内でも2番目に多かつたそうです。

毎年ですが、朝早くから着物一式を抱えた母娘が美容院に急ぐ姿を見かけ



ると、何とも言えず微笑ましく思います。会場のあちこちで、希望に満ちた様子の子の二十歳の若者が振り袖やスーツに身を包み、仲間との久しぶりの再会を喜びながらにぎやかに会話を楽しむ姿は、キラキラと輝いていました。

そんな中、今年も「はたちを楽しむついでに」が開催され、私たち青少年委員は恒例の「はたちの手形コーナー」を担当しました。これは色紙に好きな文字を書いてもらい、その上に自分の手形を押して二十歳の記念にしておこうという企画です。

前日から備品の搬入や物品の買い出し、また会場設営などを行い、新成人を祝うため心を込めて準備しました。

当日は6班に分かれて作業します。「はたちの手形コーナー」に新成人を勧誘する「案内係」、参加者の荷物を預



かる「クローク係」、墨で暗れ着などが汚れないようかつぼう着などを用意する「着替え係」、色紙に文字を書いたり手形を押す手伝いをする「指導係」、インクが付いた手を洗う「洗面所係」、そして最後に盛大にお祝いする「祝いの場係」をローテーションしながら、青少年委員全員で新成人を祝います。

最後の祝いの場では、成人を迎えたことにお祝いの言葉を添えて、関東一本締め、三本締め、万歳三唱、絶賛エール、ヨヨイの中から新成人に選ん



でもらい、盛大に盛り上げて祝いの儀式を行います。今年の風潮でしょうか、心なしか一本締めやヨヨイなど、少し地味なものが多かつたような気がします。

それでも晴れやかな笑顔で色紙を受け取る新成人を見ると、「おめでとー、頑張れよ」と声を掛けたくなります。前途有望な若者たちに幸多かれと心から願いました。

(文責：葛西南地区・石川祐成)

第37回氷上フエスティバル

令和元年12月8日(日)、江戸川区スポーツランドにて「第37回氷上フエスティバル」が開催されました。

私たち東部地区の青少年委員は、毎年工作コーナーを担当しており、今回は「マジックスクリーン」を作りました。「マジックスクリーン」とは色の付いた紙の上にプラ板を置いて、その絵をマジックペンで縁取りし、紙とプラ板の間に白い紙を挟むことで、プラ板をずらすと色が付いているように見えるものです。

開会式の後にスケートの模範演技を披露する予定の子どもたちも立ち寄り、演技前の緊張など吹き飛んだように夢中になって工作をしていました。子どもたちが「面白い」と感じたものに素直に感動し喜んでいる様子を見て、青少年委員として子どもたちとふれあうことの楽しさと喜びを改めて実感しました。(文責 東部地区 岩田光輝)



令和2年1月19日(日)、青少年育成葛西第二地区委員会主催「第36回ふれあいニューイヤーマラソン大会」が江戸川区陸上競技場で行われました。

毎年たくさんさんの小学生が参加するこの大会には、今年も親子マラソンを含め1719名がエントリーし、1538名が完走しました。

第36回ふれあいニューイヤーマラソン大会



清新第二中学校のご厚意により設置された校庭の駐輪場は、参加者や応援の家族を含め2千台以上の自転車が無事出入りします。青少年委員は寒さの中、駐輪場係として裏方を担いました。

レースを終え、楽しそうに話しながら帰ってくる親子、賞状を持った誇らしそうな子、思い通りに走れなかったのか、悔しそうな泣き顔の子…。そんな子どもたちにも「また来年も来てね!」と声をかけ、楽しい一日を過ごしました。(文責 葛西西南地区 木下真理子)



凧作り・凧揚げ大会

令和2年1月26日(日)、平井小学校の体育館において青少年育成小松川平井地区委員会主催の「凧作り・凧揚げ大会」が開催されました。およそ100名の親子が参加し、「江戸川凧の愛好会」の蒲倉一郎会長の指導のもと、伝統的な凧を和紙で作りました。

私たち青少年委員やジュニアリーダーの中高生は、参加者が分からないところを個別に聞き、凧作りをサポートしました。最後の色付けを終え乾かしている間に、地区委員平井小学校PTA・地域協力者の方々が作ってくれたすいとんをいただき、冷えた体を温めました。

雨天のため残念ながら凧揚げはできませんでしたが、自分で作った凧をうれしそうに持ち帰る子どもたちの姿に、心も温かくなりました。

(文責 小松川地区 塚原久美子)

子どもの文化体験研究グループ

わがまちの良さを子どもたちに伝えよう

子どもの文化体験研究グループは、子どもたちが江戸川区の自然や伝統ある行事、産業に親しむ機会をつくり、地域文化の理解を深め人間性や社会性を高めて、豊かな社会づくりに貢献できる人になることを願って活動しています。

そのため、私たちは子どもの体験型イベント「まち歩きたんけん隊」を企画・実施しています。「たんけん隊」は地域や学校の協力のもと、回を重ねるごとに充実した活動となってきました。

6期目の今期は、葛西北地区部会管内での実施に取り組みました。地域の地区委員会の方や青少年委員OBなどから地域の歴史・行事・産業の情報を集め、名所・旧跡・工場・仕事場を实地踏査し、企画の実現に向けて活動してきました。

そして令和元年12月1日(日)、地域の小学1〜3年生44名が参加し「新川たんけん隊」を実施しました。新川での和船体験・職人による畳作り見学・麦茶ときな粉の製造所見学を、地元の魅力ある人たちとふれあいながら体験しました。

特に和船体験では、一人ひとりが櫓を握り操船の難しさを実感してもらいました。子どもたちには、驚きの体験だったようです。

また、研究グループの活動は子どもだけでなく、グループ員にとってもわがまちの新たな良さを再発見する機会となっています。

「たんけん隊」が子どもたちにとって地域の文化とそれを担う人たちと出会う良い機会となっていることをうれしく思い、さらに活動を充実させていきたいと考えています。

(リーダー：安次富宏行 文責：斉田治)



きな粉製造所見学



畳作り見学



新川で操船体験

わくわくレクリエーション研究グループ

わくわくレクリエーション研究グループは、今期初めて立ち上がり、11名のメンバーで活動してきました。

レクリエーション(以下、「レク」と表記)とはラテン語の「Recreate」から来ており、元来、病気の治癒や回復を意味していました。現代では治療や介護だけでなく、さまざまな場面で使われます。

私たちが学ぶレクは、青少年委員が企画・立案・運営補助に関わるイベントで、子どもたちとの親睦を深めたり、参加者同士の交流を促したりするためのツールです。

初年度はジュニアリーダー講習会講師養成講座に参加したり、社会教育主事に教わりながら20種類近いレクの体験や勉強を重ねました。決められた時間の中でレクの内容をわかりやすく伝え、参加者に実践してもらうのはとても難しいことです。ただ楽しむためにゲームや手遊びをするだけでなく、場面に応じて目的を明確にした上でレクを選び、構成していくことも学びました。

実践の場としては、区長との懇親会で英語を使ったレクに挑戦しました。また、小松川第二中学校の平井校



青少年委員活動の大きな特徴に研究グループ活動があります。2年(1期)ごとに青少年委員が研究したい分野を考え、グループで活動を行っています。今期は6グループが活動しており、研究で習得した技術や能力を、地域での活動で実践しています。

舎で行われたイベント「学校に泊まるう」では、参加者の小学生に向けたレクを行いました。東小岩の善養寺で行われた「お寺に泊まるう」では、キャンプファイヤーレクにもチャレンジ。集大成として、西一之江小学校のすぐ近くスクールで2時間半の時間をいただき、8種類のレクを子どもたちと楽しみました。

私たちが学び実践したことを青少年委員全体で共有し、それぞれが地域活動で実践していつてほしいと考えています。

そして、そんな青少年委員の姿を見た子どもたちがレクの楽しさを知り、地域の活動や青少年委員に興味を持ち、未来の地域活動の担い手になつてもらえたらうれしく思います。

(リーダー・文責・大貫圭介)

地域でのレクリエーションの活用をめざして



ぴよぴよちゃん



道場破り



人間知恵の輪

1月定例会

講演「教育行政の現状と課題」

令和2年初の定例会は、1月17日(金)に江戸川区総合文化センターで行い、千葉孝教育長に講演をしていただきました。

今回は重点を置いている施策を中心に、「教育行政の現状と課題」という大きなテーマでお話しいただきました。まず、区の人口の推計や児童生徒数の推移、外国人人口の

現状について説明がありました。また、平成27年度に行われた「子どもの実態把握のための調査」の結果を紹介しながら、子どもの成長支援に関する区の事業について話されています。

教育長の気さくな人柄にふれつつ、地域に求められる青少年委員の役割を再認識することができました。(文責・葛西北地区・森口安子)



2月定例会

講演「地域企業としての青少年との関わりについて」

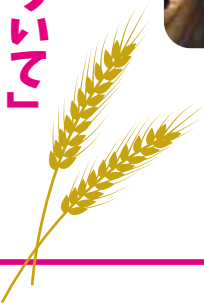
令和2年2月21日(金)、小川産業株式会社の小川良雄代表取締役をお招きして、「地域企業としての青少年との関わりについて」というテーマで講演をしていただきました。

小川産業は明治41年に創業し、麦茶やきな粉を中心に製造・販売を行っている区内の企業です。近隣の小学校や特別支援学校から工場見学を

受け入れるなど、積極的に地域への貢献を行っています。見学に来た子どもたちの驚きや感動の声を聞くと、ご自身も嬉しくなり、勇気をもらえるとのお話がありました。

「人とふれあうことを大事にし、人のためになることをしよう」という代表取締役の熱い思いが伝わってきて、私たち青少年委員も、人とのつながりを大切に活動してい

きたいと改めて感じました。(文責・東部地区・横井由美)



あとがき

今期のメンバーで作成する最後の「青少年委員だより」となりました。慣れないパソコン操作に戸惑う委員もいましたが、全員で積極的に取り組んだ2年間でした。来期もより良い紙面づくりに努めてまいります。

広報部一同



青少年委員だより

発行 江戸川区青少年委員会
編集 広報部
連絡 江戸川区文化共育部
健全育成課青少年係

☎(5662)1629